



女子砲丸投げ決勝 13桁40をマークして優勝した生光学園の川口＝鳴門大塚スポーツパーク第2陸上競技場

川口(生光)好記録で優勝 女子砲丸

女子200 前川(鳴門)が大会新V

陸上

(鳴門大塚スポーツパーク第2陸上競技場)
【男子】2000㍎久保井颯(鳴門渦潮)21秒14、中村(徳島北)21秒71、岡田(小松島)21秒75以上追い風参考▽5000㍎①須磨秀斗(徳島科技)15分24秒39、②奥田(徳島科技)15分27秒38、③國安(〇〇)15分29秒40▽1600㍎①レド(鳴門渦潮)喜多、久保井、森谷、日比生)3分22秒21、②鳴門3分24秒75、③徳島市

立3分24秒84▽三段跳び①吉田康風(富岡東)14桁35、②追い風参考②小西(富岡東)14桁03、草津(城南)13桁36、③追い風参考▽やり投げ①山本悠斗(小松島)44桁90、②光畑(小松島)43桁21、③森本(海部)42桁46▽八種競技①森本(阿波)4分20秒7、②片山(脇町)3分30秒0、③

25秒66▽3000㍎①竜田そら(鳴門)10分7秒52、②辻田(富岡東)10分12秒16、③松谷(鳴門)10分15秒38▽100㍎障子の吉川和乃(名西)14秒42、由本(鳴門渦潮)14秒91、③細(城南)15秒36以上追い風参考▽1600㍎①レド(鳴門)花木、福島、千代田、真翼)4分2秒37、②徳島市立4分4秒01、③名西4分5秒58▽三段跳び①高内結菜(鳴門)11桁50、②都(徳島市立)10桁98、③富島(徳島市立)10桁92以上追い風参考▽砲丸投げ①川口由貴(生光学園)13桁40、②三田(生光学園)12桁54、③三田(城東)8桁76

▽総合①鳴門172点、②徳島市立68・5点、③鳴門渦潮63点
鳴門渦潮・前川七海



女子200㍎を24秒70の大会新で制し、「最終日で疲労もあったが、決勝は気持ちよく走った。U20日本選手権の参加標準記録(24秒60)を突破できず悔しさもある」

自己ベストに口及ばず「反省」川口は、優勝した生光学園の川口由貴(生光学園)に13桁40をマークして優勝した。昨年の全国大会で出した自己ベストの14桁37には1桁近く及ばず、表情はさえない。前年3投を終えて記録は12桁85。「上半身と下半身の動きが合わず、失投が続いた」と振り返る。4投目でようやく13桁台に乗せ、5投目に優勝記録を残したものの、納得のいく結果は得られなかった。前日の練習は悪くなかったと言いつつ「投げなければと思うと動きが悪くなる」と、試合で記録が伸び悩む最近の状況を悩ましげに語った。

この感想が漏れるのは、レベルと意識の高さの表れだろう。女子砲丸投げを13桁40で制した川口(生光学園)だが、優勝した昨年の全国大会で出した自己ベストの14桁37には1桁近く及ばず、表情はさえない。前年3投を終えて記録は12桁85。「上半身と下半身の動きが合わず、失投が続いた」と振り返る。4投目でようやく13桁台に乗せ、5投目に優勝記録を残したものの、納得のいく結果は得られなかった。前日の練習は悪くなかったと言いつつ「投げなければと思うと動きが悪くなる」と、試合で記録が伸び悩む最近の状況を悩ましげに語った。

感染症対策のため声を出して応援ができず、選手同士で励まし合う同校のスタイルを出せないことも影響している。「自分でどこまで気持ちをつくれるか。モチベーションを上げるのが難しい」と打ち明ける。それでも、再びの全国制覇を目指す2年生は悲観ばかりしていない。「四国選手権までに状態を上げ、13桁台後半で記録を安定させたい。そしてもう一度14桁を投げたい」。今後に向けた言葉はどれも前向きだった。(石津遼)